

令和5年度（2023年度）経済環境常任委員会管外視察の概要

- 1 視察日 令和5年（2023年）11月7日（火）～9日（木）
- 2 視察者 経済環境常任委員会（7名）
吉田孝平（委員長）、池永幸生（副委員長）、吉永和世、
内野幸喜、前田憲秀、岩田智子、住永栄一郎

3 視察の概要

（1）ジャパンマテリアル株式会社

ジャパンマテリアル株式会社は、半導体の生産工程に不可欠な特殊材料ガス供給技術をはじめ、水、薬液、電力、空調等の供給管理サービスを展開している。熊本県内においても、令和4年11月に大津町に熊本事業所を開設している。

今回の視察では、特殊ガスの供給装置製造現場を視察するとともに、同社の業務内容について説明を受けた。

ジャパンマテリアル株式会社から、エレクトロニクス関連事業、半導体工場、液晶工場に必要な原材料の供給から製造装置のメンテナンスまでグループで一括して提供しているため、顧客の工場の建設時の設備投資だけでなく、工場稼働後も維持管理でオペレーション部門の業務が増えてくるのが当社の特徴である、将来的にはオペレーション部門の比率を増やしていきたいとの説明があった。



（2）三重県庁

伊勢志摩国立公園は、環境省の国立公園満喫プロジェクトの先導的モデルの一つとして選定され、2016年からステップアッププログラムを策定し、地域主体による官民一体となった取組を展開している。

今回の視察では、三重県におけるステップアッププログラムの取組について説明を受けた。

三重県農林水産部みどり共生推進課から、ステップアッププログラム2020においては、推進組織として伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会を設置し、横山天空カフェテラスの整備を核とした横山地区一体の整備や、海女小屋を活用した外国人利用者の増加等の成果があり、ステップアッププログラム2025においては、横山ビジターセンターの施設整備、ワーケーション



ン、エコツーリズム関連事業で成果があがっているとの説明があった。

(3) 横山ビジターセンター

横山ビジターセンターは、環境省が整備した、体験プログラムや映像を通して、伊勢志摩国立公園を紹介し、その自然環境を身近に感じてもらうための施設である。

また、一帯には横山展望台、横山天空カフェテラスが整備され、英虞湾の美しい風景が楽しめる。

今回の視察では、それぞれの施設を視察するとともに、ビジターセンターの運営状況について説明を受けた。

環境省伊勢志摩国立公園管理事務所から、横山天空カフェテラスのカフェの運営は民間事業者と協定を締結しており、売上げの一部の寄附を受け樹木の伐採など園地の維持管理に活用している、ビジターセンターから展望台までの通路周辺の樹木はあえて伐採せず、展望台に着いて初めて湾の景色が一望できるような演出をしている、また、ビジターセンターの入館者数、展望台の利用者数は、ほぼ新型コロナ前の水準に戻りインバウンド（台湾、香港など）の増加が目立つとの説明があった。



(4) 公益社団法人伊勢市観光協会

伊勢市は、古くからお伊勢参りとして、伊勢神宮を中心に、人々に親しまれている。

今回の視察では、伊勢市観光協会における情報発信、外国人観光客の誘致、観光ガイドの取組について説明を受け、観光ガイドの案内により伊勢神宮を視察した。

伊勢市観光協会から、観光客数はコロナ禍前の80%くらいまで回復しており、神宮

以外での滞在時間を増やすことが課題であるため、レンタサイクルの活用、山田奉行所記念館、二見浦海水浴場など伊勢市内の近場の観光地のPRに努めている、また、次回の式年遷宮は10年後であるが、次回遷宮に向け、伊勢御遷宮委員会の一員として、様々な協議を進めているとの説明があった。



(5) 四日市公害と環境未来館

四日市公害と環境未来館は、四日市公害の発生に至る経緯や被害、環境改善に向けた取組について、映像や写真、絵本などで分かりやすく展示している。

今回の視察では、企画展及び特別展の内容、語り部、解説員の活動を通じた環境学習推進の取組について説明を受け、館内を視察した。

四日市公害と環境未来館から、博物館と一体となっていることにより、公害発生前の時代も体感でき、原始・古代から現代までの四日市の歴史を一つの流れとして理解できることから、四日市市内の小学5年生、中学3年生は、全員公害・環境学習で同館を訪れ、学習を深めている、また、語り部が現在3人と少なく、数を増やしていくことが今後の課題であるとの説明があった。

